



ギブリ株式会社は「AthTAG GENKIDAMA AWARD 2024」で受賞した GENKIDAMAアスリートを応援しています。

AthTAG GENKIDAMA AWARD とは

AthReebo株式会社が運営する、アスリートと企業の『相互支援型の社会貢献活動』となる「AthTAG」によるピッチコンテスト。企業各社やレジェンドアスリートたちの応援【GENKIDAMA】を集め、未来を担うアスリートに届ける年に1度の祭典です。ミライアスリート自らがプレゼンテーションを行う最終審査を経て、活動費を支援するアスリートを決定します。



AthTAG GENKIDAMA AWARD 受賞アスリート

AthTAG 大賞 吉田 弘道 選手 (陸上競技・走り幅跳び)

1999年生まれ、兵庫県出身。現在日本歴代3位の記録保持者。2024年パリオリンピックを目指していたものの、遠征費の工面ができず、また怪我也も重なり、パリオリンピック出場を逃す。27年の北京の世界陸上での表彰台、28年のロサンゼルスオリンピックでの、金メダル獲得を最終目標に、まずは来年の東京世界陸上での入賞をめざす。



AthTAG 副賞

応援のチカラ賞 藤田 炎村 選手 (ボクシング)

1994年生まれ、愛知県出身。第45代日本スーパーライト級王者。世界を目指すため会社を退職するも、突如スポンサー支援の話がなくなり一時無給生活に陥る。現在はパーソナルトレーナー等で生計を立てながら練習を続けている。来年は海外での試合に参加予定。最終的には世界チャンピオンや海外でのビッグマッチを行うことが目標。副賞と併せて、クラウドファンディングで最も応援を集めた選手に贈られる「応援のチカラ賞」のW受賞を果たす。



野村忠宏賞 川端 倅明 選手 (柔道)

この度、野村忠宏賞を受賞できたことを大変光栄に思います。そして、これまでご支援いただいた皆様へ、感謝申し上げます。この賞をきっかけに、さらなる進化を遂げ、ロス五輪優勝、ブリスベン五輪優勝に向け突き進みます。また競技力向上はもちろんです、人間力の向上にも努めてまいります。所属：国土館大学 体育学部



伊達公子賞 沢代 榎音 選手 (テニス)

伊達公子賞を受賞できて本当に嬉しいです！ありがとうございます。グラウンドスラムジュニアでの成功やプロを目指し活躍できるよう頑張ります！埼玉県朝霞市在住、高校1年生/現在世界ジュニアランキング51位。2024年ジュニアビリーゼンキングカップ(旧ジュニアフェドカップ)U16日本代表、全豪オープンジュニア・全仏オープンジュニア予選出場、全米オープンジュニア2回戦、J200 マレーシア優勝、w15札幌ベスト4。



古田敦也賞 東野 魁仁 選手 (野球)

受賞を聞いて驚きと感激に胸が躍りました。感謝の気持ちでいっぱいです。能登半島地震により被災された方々へ、元気・勇気・感動を与えることができるようなプロ野球選手となって恩返しをしたいです。石川県立穴水高等学校3年生/191cm78kg。右投・両打、MAX138km。スライダー・カーブ・ツーシーム。長身細身のプロ注目138キロ腕。中学時代はバスケ部。少数野球部で主将、1・3番、エースを担う。 ※公益財団法人日本学生野球協会の日本学生野球憲章に則り、本アワードでの受賞による活動応援費の授受は、在学する高等学校の卒業式翌日以降に実施いたします。



潮田玲子賞 一般社団法人 Azure sky

子どもたちには、スポーツを通じて人と関わる喜び、挑戦することの素晴らしさを体感してもらい、自立した大人になってほしいと思っています。子どもたちの未来を創るのは大人がきっかけです。子どもたちの未来のためにこれからも活動してまいります。この度は選出していただきありがとうございます。代表理事 築城 昌拓/2006年7人制ラグビー日本代表選出。2006年アジア競技大会(ドーハ)金メダル。2009年東アジア競技大会(香港)金メダル。2010年アジア競技大会(広州)金メダル、7人制ラグビーワールドカップ出場。2024年7人制ラグビータイ代表コーチ就任。



AthTAG GENKIDAMA AWARD 登壇アスリート

東 莉央 選手 (フェンシング)

1998年生まれ、和歌山県出身。2024年パリ五輪で銅メダルを獲得した東麗良を妹に持ち、現在は姉妹で共同カイケイ(株)に所属している。2019年フランスW杯団体では妹とともに銅メダルを獲得。21年東京五輪に初出場し、女子フルール団体6位、個人24位。24年11月より海外での大会が始まり、年に約8回程度渡航が必要となるが、遠征費は全て実費負担している。28年のロスオリンピックでのメダル獲得を目標として活動中。



井戸 志春 選手 (アルペンスキー)

2010年生まれ、神奈川県出身。2023年ジュニアオリンピックK1部門で準優勝の実績を持つ。元々シーズン中は長野、オフシーズンは神奈川県で生活していたが、小学校3年生の時に「世界一の選手になりたい」という想いを両親に伝え、家族全員で長野県に移住。現在、海外遠征費は両親が支援しているが、今後さらに活動の幅を広げていくため、このコンテストに応募。今シーズンは国内大会で着実に勝ち上がり、最終的にはワールドカップで総合優勝することを目指している。



井上 鷹 選手 (サーフィン)

2000年生まれ、宮崎県出身。SUP・ロング・ショートサーフィンの「三刀流プロサーファー」として活動。小学生時代に転校生いじめを受け、引きこもりがちだったが、サーフィンに出会いプロを目指すことを決意。14歳から競技に取り組み、アジア人初の世界大会銀メダルを獲得。海外への遠征費を節約するため、直行便ではなく経由便を使用して渡米するなど、ハードな移動をしている。最高成績/APP(パドルボードプロ連盟)SUPサーフィンワールドツアーロングボード部門優勝、ワールドタイトル獲得



佐々木 琢磨 選手 (デフ陸上競技・短距離)

1993年生まれ、青森県出身。内耳性難聴発症。盛岡聴覚支援学校高等部3年時に、全国ろう学校陸上競技大会の100m、200m、400mリレーで三冠を達成。22年にブラジルで開かれたデフリンピックの男子100mでは金メダルを獲得。支援がなく、現在は仙台大学の職員として勤務しながら活動を行なっている。25年11月に行われるデフワールドカップにて100m、200m、400mリレーで金メダルを獲得し3冠王になることと、世界新記録を樹立することを目指している。



橘 龍平 選手 (車いすテニス)

2007年生まれ、千葉県出身。生まれた時から二分脊椎の障がいがあったが、わずか12歳で国内ジュニアランキング1位を獲得。今年開催された国内最大規模の大会「ユニクロ全日本ジュニアテニス選手権2024」では初代チャンピオンに輝いた。車いすテニスは国内大会の獲得ポイントが低く、世界ランクが上がりにくいという実情がある。また、この競技で稼げる選手はほぼおらず、継続が難しい状況。テニスを始めた頃から7年かけて計画的に準備を行ってきたジュニアマスターズ出場を目指している。



塚原 悠翔 選手 (スノーボードクロス)

2003年生まれ、富山県出身。中京大学在学中。3ヶ月の海外遠征をしている。練習以外の時間でアルバイトをして生活費を支払うことで精一杯。用具代や遠征費は母親が借金をして工面してくれている。今年、FISワールドカップにも初出場した。今後は、2026年のミラノオリンピック出場を目標に活動していく。



AthTAG GENKIDAMA AWARD 2023 受賞アスリート

2023・AthTAG大賞 本郷 汰樹 選手 (陸上競技・短距離)

1999年生まれ、愛知県出身。株式会社オノテック所属。高校の陸上部で短距離を始め、立命館大学、名古屋大学大学院に進学し、名大院2年時に学生歴代9位タイである10秒12をマークする。2024年日本選手権5位入賞。AthTAG GENKIDAMA AWARD 2023で大賞を受賞。獲得した活動応援費でニュージーランドに海外遠征。



2023・AthTAG大賞 三井 結里花 選手 (ライフセービング)

館山サーフライセービングクラブ所属。出産半年で日本一を奪還、パドルボード世界選手権では二連覇を達成。オリンピック競技になることも見据え、2024年世界大会でのメダル獲得を目指すと同時に「一歩踏み出す勇氣」を子育てに励む同世代にも届けることを目標に日々奮闘中。AthTAG GENKIDAMA AWARD 2023で副賞を受賞。獲得した活動応援費は大会遠征費用に活用。全日本ライフセービングマスタースターズ選手権大会2023 00m障害物スイム1位、50m マネキンキャリアー1位、100m マネキントゥウィズフィン3位



2023・野村忠宏賞 服部 辰成 選手 (柔道)

1999年生まれ、神奈川県出身。東海大学所属、柔道66kg級。7歳の時に朝飛道場で柔道を始め、立命館大学、2021年インターハイ優勝。2022年 講道館杯準優勝。2022年 グランドスラム東京 準優勝。2023年 ワールドユニバーシティゲームズ個人優勝、団体優勝。AthTAG GENKIDAMA AWARD 2023で野村忠宏賞を受賞。獲得した活動応援費は自身のメンテナンス費用に活用。2024年 ボルトガルグランプリ ボルトガル・オディヴェーラス 銅メダル



2023・伊達公子賞 石井 心菜 選手 (テニス)

2010年生まれ。グリーンテニスプラザ所属。小学6年生で全国2冠達成。2023年全日本ジュニアテニス選手権 準優勝。2023-2024年 U14女子日本代表(ジュニア国別対抗戦アジアオセアニア予選・ワールドジュニア)。今年も日本代表として活躍中。父は元プロテニス選手の石井 亦起。AthTAG GENKIDAMA AWARD 2023で伊達公子賞を受賞。獲得した活動応援費は海外遠征費用に活用。2024年 ITF World Tennis Tour Juniors J300 Nonhaburi 予選3回戦。

